

【図書紹介】

『本当にあった奇跡のサバイバル60』 タイムズ著 ベア・グリルス（前書き）

数々の危険に直面した人達は、どのようにして生き延びたのか、危機を脱して生還する為には何が必要なのか、本書は想像を絶する様々な苦境、苦難を何とか乗り越えた人達の60件の例が以下の5章に分けて収められた興味深い実話である。

第一章 サバイバル 極限からの生還

第二章 脱獄 脱出の大活劇

第三章 戦争 命をかけた逃走

第四章 難破 漂流の果てに

第五章 誘拐・人質 不条理な拘束

冒険談やサバイバル物語は若い頃から好みの分野であり、かなり通じていたつもりだったが、本書にて初めて知った事が沢山あって、大変興味深かった。世界は広く様々という事だろう。

単行本としてベストセラーになった物や映画化された物も多い。第一章「苦渋のザイル切断」の原作は「死のクレパス」で、作者はペルーアンデスのシウラグランデ西峰(6344m)初登攀後氷壁で滑落したジョー・シンプソン。相棒のサイモンは自分が助かる為に二人を繋ぐロープを切断し下山してしまうが、見捨てられたジョーは、決して諦めず、飲まず食わずで這い下り、3日後にBCに生還したのだった。これは「運命のザイル」として映画化され話題呼んだので観られた方も多いに違いない。

「岩にとらわれて」は原作「奇跡の6日間」でユタ州ブルージョン・キャニオンで、岩にはさまれた腕を自ら切断して生還したアーロン・ラルストンの物語。映画化された「127時間」はバックの音楽もノリが良くリズムもあって3回も観てしまった。主演のジェームズ・フランコはその演技で2010年アカデミー主演男優賞にノミネートされ、最近では北朝鮮の独裁者を揶揄した映画「ザ・インタビュー」で司会者役で重要な役に就き、話題となっている。

「雪の高山に墜落」はアンデス山中に飛行機が墜落し、死んだ仲間の遺体を食し生還した16名の生存者のお話。何ともおぞましいカニバリズム、これは他の章でも取り上げられており喰人は生き抜く為の究極の選択なのだろう。これも映画化され題名は「生きてこそ」。別にドキュメンタリー映画「アライブ(生還者)」もある。

その他、スティーブ・マックイーンの「大脱走」、ブラッド・ピットの「セブンイヤーズ・イン・チベット」、マーロン・ブランド「戦艦バウンティ」、シャクルトン「エンデュランス号」等々盛り沢山の内容で暇つぶしに読むには恰好の読み物だ。

数々の実話から我々が学ぶ事<それは何としても生き抜くのだという強靱な精神>それに尽きるようだ。それにしてもスラヴォミール・ラウイツの「脱出記」がここに紹介されてなかったのは意外だった。シベリアの収容所からの脱出劇、面白かったがやはり眉唾と思われたのか？都合良く同郷の娘が現れたり、雪男が出てきたりと胡散臭いものがあり、実話であるとの確証が得られなかったのだろうと思う。さすが厳格を重んじるナショジオだなあと改めて感心した。

日経ナショナル ジオグラフィック 2013年12月発行 2400円 (赤鬼)